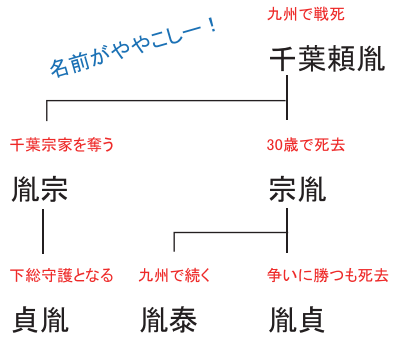
山城ガールむつみの出陣のススメ

「いざ、久保城へ！」の巻

久保城

「千田殿」と呼ばれていた
多古とゆかり深い千葉胤貞の城！

久保城は千葉宗家当主の胤貞が居館として築いたと伝わります。台地全体を天然の要害として利用したと思われ、久保城を守るために分城や中城を築いたともいわれています。
千葉一族の内紛の舞台ともなった久保城。千田荘（多古）にとって重要な「久保」の地をぜひ歩いてみてください。



九州千葉氏の菩提寺

小城市・光勝寺「千葉胤貞像」

すごい、千葉一族！全国に広がり戦国時代を駆け抜けた！！

「余湖くんのホームページ」でも知られる余湖さんが久保城を訪れて、縄張図を書いてくれました！ぜひ、現地で参考にしてくださいね！

台地をぐるりと歩くと、周囲が沼などに囲まれた低湿地の要害だったことを感じます。
●マーク箇所には小さな祠。そこから荷揚げ道のような凹みが台地の上に続きます。荷上場だったのかも？！

余湖くん（余湖浩一氏）・作

久保城はほとんどが*私有地です。*
遺構などはあまり残っていませんが、千葉宗家の居館が築かれたと思われるとても貴重な場所です。千葉氏と多古の繋がりを考える上でとても重要なお城なんです！
多古城郭保存活用会が久保城の説明板を作成しましたよー！
●マークのとこです。

九州千葉氏　*胤貞のお父さん「宗胤」が九州千葉氏の祖！*

千葉氏は源頼朝の鎌倉幕府設立に協力した恩賞として、肥前国小城郷（現在の佐賀県小城市）を領地としてもらいました。九州に領地を持っていたこともあり、元寇の際、千葉宗家当主の頼胤は異国警護番として九州に派遣され、元の軍勢と戦いました。しかし、頼胤は奮戦するもそのときの傷が原因で死んでしまいます。その後、頼胤の嫡男宗胤が家督を継ぎ、本国下総と九州の領国経営に奔走しますが、宗胤も 30 歳の若さで死去。宗胤の子の胤貞はまだ幼かったこともあり、本国下総は宗胤の弟の胤宗が実質的に統治することになりました。胤貞が成人すると、胤宗の子である貞胤と従兄弟同士で千葉氏宗家の座を争う一族の内紛へと発展していきました。胤貞は足利尊氏方に、貞胤は後醍醐天皇方について戦います。胤貞が勝つも病に倒れ、結果として貞胤が当主の座を手にすることに。それにより、宗胤の系統は下総から九州へ移り九州千葉氏に、胤宗の系統が下総千葉氏として存続していきました。九州千葉氏は小城に関東の文化を持ち込み、日蓮宗の寺院を建て、「千葉城」という城を築き、戦国時代を生き延び現在にその歴史を伝えてくれています。

竹林山妙光寺の板碑

妙光寺には 13 基の板碑が置かれています。応安 2 年（1369 年）から長禄 4 年（1460 年）に造立されたもので、題目が刻まれた法華信仰のもので、下総板碑と呼ばれています。板碑（いたび）とは、生前供養もしくは追悼供養のための供養塔のことです。妙光寺には千葉胤貞供養の板碑もありますよ！

飛行機もないのに大変～

ややこしいけどわかると楽しい千葉一族！
九州にも広がって活躍したのね

山城ガールむつみ